

## 正 誤 表

「抗酸菌検査ガイド 2016（第1刷）」

下記の箇所にご迷惑がございました。謹んでお詫びし訂正いたします。

| 頁  | 該当箇所   | 誤   | 正  |
|----|--|---|--|
| 30 | 本文 左段<br>② 顕微鏡学的観察<br>(Geckler分類)<br>3行目     | Grade 1～6 の6段階で表記するが、扁平上皮が多く多核白血球が少ないほど Grade は低くなり、逆に扁平上皮が少なく多核白血球が多いほど Grade は高くなり、Grade が高いほど検体として適切と判断する。 | Group 1～6 の6段階で表記するが、Group の数値が 1～2 の場合は唾液成分を多く含み、喀痰の質は悪く適切な検体とはいえない。逆に Group の数値が 4～5 の場合は唾液成分は少なくなり、下気道由来の喀痰が適切に採取されたものといえる。 |
| 30 | 本文 左段<br>② 顕微鏡学的観察<br>(Geckler分類)<br>8行目     | 肺結核のように慢性の肉芽腫性病変や高齢者肺炎が重複した場合には Grade が低い症例も混在し、膿性痰の量が少なくても結核菌が検出されることがある。                                    | 高齢者肺炎は唾液誤嚥が多く含まれ、また、肺結核は肉芽腫性病変が主体となるので、肺結核患者の喀痰の質は Geckler 分類で判定できない場合があることを認識しておく必要がある。                                       |
| 31 | 「図 2 喀痰の顕微鏡<br>下での品質評価法：<br>Geckler分類」<br>表  | Grade   | Group  |
| 31 | 「図 2 喀痰の顕微鏡<br>下での品質評価法：<br>Geckler分類」<br>図説 | Grade 1～6 の6段階で表記するが、扁平上皮が多く多核白血球が少ないほど Grade は低くなり、逆に扁平上皮が少なく多核白血球が多いほど Grade は高くなり、Grade が高いほど検体として適切と判断する。 | Group 1～6 の6段階で表記するが、Group の数値が 1～2 の場合は唾液成分を多く含み、喀痰の質は悪く適切な検体とはいえない。逆に Group の数値が 4～5 の場合は唾液成分は少なくなり、下気道由来の喀痰が適切に採取されたものといえる。 |

2017年3月3日

株式会社南江堂